

《 タイ脱出帰国ラッシュ : ミャンマー・カンボジアなどからの出稼ぎ労働者たち 》

小島正憲

タイでは、5/22、クーデターで軍事政権が成立した。その後、大きな混乱もなく、6/13夜、タイ軍事政権の国家平和秩序評議会(NCPO)は、首都バンコクを含む全土の夜間外出禁止令を解除したと発表した。しかし、6/11、タイ国家平和秩序評議会(NCPO)は、**外国人労働者を監督する委員会**を設置するなど、隣国のミャンマーやカンボジアからの違法な出稼ぎ労働者を摘発する構えを見せた。その結果、出稼ぎ労働者の間に、タイ当局の取り締まりが強化されるとの情報が広がり、母国へ引き揚げる動きが活発化し、ミャンマー・カンボジア国境は、今、それらの労働者たちの帰国ラッシュで大混乱となっている。なお、ミャンマー側はメーソート(ミャンマー側マヤワディ)の国境、カンボジア側はアランヤプラテート(カンボジア側ポイベト)の国境に集中している。



タイでは、ミャンマー人・カンボジア人など約250~500万人の外国人単純労働者が、縫製加工など単純作業、漁業関連や建設現場などで働いている。従来から、タイは深刻な人手不足に陥っており、今回の外国人出稼ぎ労働者の一斉帰国は、タイ経済に大きな痛手となると思われる。反面、ミャンマーやカンボジアには、今後、帰国した労働者を追いかけてタイから怒濤のような企業進出ラッシュが起きると予想される。つまり今後は、タイ経済の地盤沈下とミャンマーやカンボジア経済の目覚ましい向上が、同時進行すると思われる。

《 カンボジア側 》

①カンボジア労働者が国境に殺到＝取り締まり強化の情報で一斉帰国

タイで働くカンボジア人労働者が国境に殺到している。タイで軍事クーデターが起きたことで、カンボジア労働者の間にタイ当局の取り締まりが強化されるとの情報が広がり、母国へ引き揚げる動きが活発化。帰国者の数は、先週以降、約12万人に達しているという。タイで働くカンボジア人労働者は、多くが建設現場や海産物工場、農業などに従事。しかし、労働許可書がないまま不法就労しているケースも多いとされる。タイ東部と国境を接するカンボジア・バンテイメンチェイ州の知事は、「過去に例がないほど、人々が国境検問所に押し寄せている」と話している。

タイ国家平和秩序評議会(NCPO)は先週、外国人単純労働者の規制を検討すると発表した。ただ、タイ外務省は15日、「タイ軍部がカンボジア人労働者を拘束するとの情報はうわさにすぎない」とするコメントを発表し、事態の沈静化を図った。タイからカンボジアへ帰国した人は、15日だけで計1万2000人に上った。カンボジア当局は、自国民の輸送のため、アランヤプラテート(タイ東部)ーポイベト(カンボジア)の国境検問所に軍車両などを派遣し対応しているが間に合わないため、多くはしばらく国境近くに寝泊まりしなければならないという。一方、タイ地元紙は、**カンボジア労働者の一斉帰国によって、国内各産業で人手不足が深刻化すると懸念が経済界に浮上している**と伝えた。

②タイ軍政、「出稼ぎ者追い出す考えない」＝カンボジア人の帰国続く

タイ国家平和秩序評議会(NCPO)は16日の定例記者会見で、「周辺国の出稼ぎ労働者を追い出す考えはない」と改めて強調した。NCPO報道官は、不法就労者の登録だけを求めているとし、それ以外の意図はないと語った。タイ軍政が外国人単純労働者向けの対策を強化するとのうわさが広がり、タイで働くカンボジア労働者の帰国が相次いでいることについて説明した。AFP通信は、カンボジア当局の発表として、16日時点でタイから帰国したカンボジア人は計14万2000人に達したと伝えた。タイ東部と国境を接する検問所から帰国した人は、同日だけで2000人以上になったという。タイにとって、ミャンマーやカンボジアなど周辺国からの出稼ぎ労働者の扱いは、従来の政権を悩ませてきた問題の一つ。**各産業の底辺を支える出稼ぎ労働者は、タイ産業界にとって不可欠の存在である一方、不法入国による就労者も多く、管理が困難なためだ。**

NCPOは会見で、規制強化によって労働力不足が生じることを懸念する産業界の声を踏まえ、今後の対策について、「経済成長を支えるため、合理的で現実的な対応を行っていく」と指摘。「カンボジア人労働者がタイの政治情勢にパニックを起こした」と今回の事態への見方を示し、「状況を伝えるため、カンボジア語によるメッセージを発信していく」と話した。タイの建設現場で2カ月働き、帰国したというカンボジア人労働者(28)は、AFP通信に対し、「タイ陸軍に逮捕される恐れがあると思い帰国を決めた。こっちで仕事が見つかれば、もうタイには戻らない」と話している。

③帰国途中のカンボジア人7人、交通事故で死亡＝タイ東部

16日付のタイ英字紙バンコク・ポスト(1面)によると、タイ東部チャチュンサオ県で14日夜、カンボジアへ帰国する同国労働者を乗せた車が転倒し、7人が死亡し、16人が負傷する事故が起きた。労働者らは、クーデター後のタイで不法労働者への取り締まりが強化されるとの情報が広まったのを受け、国境に向かう途中だったという。転倒した車両はピックアップトラックで、警察はノパンクがきっかけとなり車が横転したと見ている。

また同紙によると、中南部のリゾート地ホアヒンのタイ国鉄駅では、母国へ帰国しようとしたカンボジアの労働者計38人が15日、見つかった。いずれも労働許可証を持っておらず、ホアヒンの建設現場で働いていた人々。軍政による取り締まり強化を恐れて帰国を希望し、同駅で無料列車が来るのを待っていたという。警察は、入国管理局に38人を引き渡し、帰国させる。

《 ミャンマー側 》

タイ軍政、ミャンマー人不法労働者の取締り強化

タイ北西部ターク県メーソートのミャンマー問題合同委員会(JACBA)によると、タイ軍政当局はミャンマー人不法労働者の取り締まりをさらに強化するとともに、雇用主に対して法的措置も辞さない構えだ。

不法労働者に対する取り締まりは、タイ国軍がクーデターを決行した5月下旬以降、強化されており、ミャンマー人労働者もその対象となっている。今月3日以降だけで 163 人のミャンマー人労働者が兵士、出入国管理官、国境警備隊によって身柄を拘束されたという。逮捕を逃れるため、遠隔地の農場や人目に付かない建物などに隠れているミャンマー人不法労働者も多数いるという。拘束されたミャンマー人労働者は、タイ国境を通じて、ミャンマー東部シャン州タチレク、南部タニンダーリ管区コータウン、東部カイン州(旧カレン州)ミャワディなどに送還される見通し。

軍政が外国人労働者に対する取り締まりを強化する背景には、英紙ガーディアンが先にタイの水産業で外国人労働者を「奴隷労働」させていると報じたことで、神経質になっている側面もあると分析した。**タイで働くミャンマー人労働者 300 万人のうち、約半数が正規の査証を持っていないという。ミャンマー人労働者の数が 500 万人に上るとの見方もある。**

以上